

# 新しい国のかたち(分権2.0)協議会

令和3年6月16日

われわれの出発点

「変化の時代」と言われた平成の約30年間、  
我が国は統治機構・社会制度・産業構造・価値観等の  
すべてにおいて、ことごとくそのアップデート(刷新)に失敗した。

新しい国のかたち(分権2.0)協議会

平成の30年間

# アップデート(刷新)に失敗

30年前の  
我が国

大きく変わった  
国際情勢

多くの課題の顕在化

- ・ 中央集権体制の限界
- ・ 経済的な失速
- ・ 慣習からの囚われ

失敗した  
現在の  
我が国

- ・ 機能しない統治機構
- ・ 漂う諦観

われわれが今こそ  
日本の統治機構を再構築し  
我々が誇る日本の国柄を磨き上げる

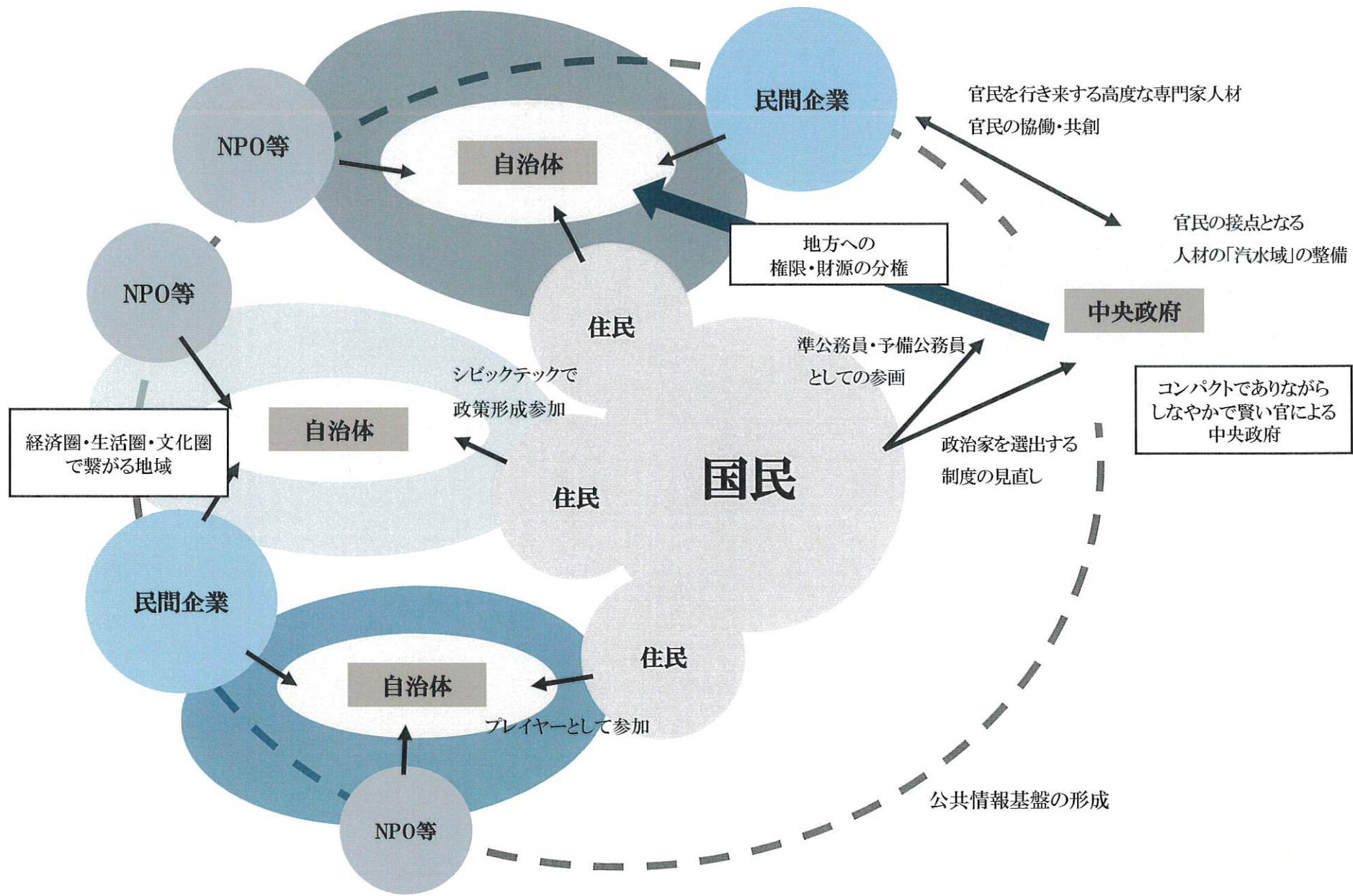
現在の延長線上に  
解決策は存在せず

平成

令和

新しい国のかたち(分権2.0)協議会

## 1. 本提言の基本的精神



新しい国のかたち(分権2.0)協議会

## 2. あたらしい公共とコンパクトで豊かな政府

## 内政のあり方：「あたらしい公共」とコンパクトで豊かな政府

- ① あたらしい公共：「公」は官の独占物ではない。  
→ 地域住民・NPO・民間企業も担い手とする『公の再構築』
- ② コンパクトで豊かな政府：中央集権体制から脱却、権限・財源移管。  
→ 経済圏・生活圏・文化圏で繋がる『地域の再構築』

## 安保のあり方：あたらしい保守に基づく、現実的な安全保障

- ① 健全な愛郷心：説得力を失うリベラル、支持されない偏狭なナショナリズム  
→ これまでの「保守」「リベラル」の二項対立からの脱却
- ② 現実的な安全保障：「自分の国は自分で守る」という大原則  
→ 他国追従でやり過ごせる時は終わったという認識に立つ

われわれは

## 「あたらしい保守」 変革を恐れぬ保守である。

- われわれの価値観が陳腐化し、制度疲労を来している現状を憂う
- 社会的公正が侵されつつある現実には屹然と立ち上がる
- 伝統と共同体の価値を守り、増進する進歩を取り入れる際には、  
誰よりも果敢である
- 我が国の歴史における困難と栄光を直視し、よき部分を磨き上げ、  
国内と国際社会を通じた課題の発見と解決を目指す
- 自律、分散、協働の連携を築き上げることが第一使命である

新しい国のかたち(分権2.0)協議会

## 4. あたらしい保守という自覚

自由で逞しい「あたらしい個人」

自由で選択肢があふれる「自律分散型社会」

「あたらしい公共」と  
コンパクトで豊かな政府

あたらしい保守に基づく  
現実的な安全保障

「あたらしい保守」

新しい国のかたち(分権2.0)協議会

## 5. 全体の構造